

平成25年度第3回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成25年度第3回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成26年 1月30日(木) 午後2時00分～4時00分
3. 開催場所 木更津市役所 6階会議室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名
金子馨委員長、三浦茂一副委員長、成田篤彦副委員長、島立理子委員、
川戸貴史委員、實形裕介委員、石井良幸委員、小河原茂之委員
教育委員会事務局6名
初谷教育長、能城教育部長、高橋文化課長、小高副主幹、中能副主幹、
寺原事務員
5. 議題及び公開又は非公開の別
報告1 第2回木更津市史編集委員会議事内容(公開)
報告2 調査・研究の進捗状況(自然部門、歴史部門)(公開)
議題1 『図説 木更津のあゆみ』の活用(公開)
議題2 『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定(公開)
その他(公開)
(非公開の理由)

6. 傍聴人 なし。

事務局(高橋文化課長)

定刻となりましたので、ただ今より、平成25年度第3回木更津市史編集委員会を開会いたします。

本日の進行を努めます文化課の高橋でございます。よろしくお願い致します。

本日の市史編集委員会は、池田委員、椛山委員からご都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告いたします。

会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規程により成立しております。また、本日の会議は公開で行いますのでご了承下さい。

はじめに、初谷教育長よりごあいさつ申し上げます。

初谷教育長 みなさん、こんにちは。年が明けて早いもので、もう1月30日です。現在、インフルエンザが流行しており、市内小中学校も非常事態で、現場もインフルエンザがはびこっている状況です。

委員の方々には、大変お忙しい中、第3回木更津市史編集委員会にお集まりいただきありがとうございます。

本日は、前回から協議されていたことを、引き続いてご協議いただくこととなります。

一つは、前回ご指摘をいただいた事項の中で、部門によって早急に調査・研究活動を資料の整理を含め実施しなければならないということで、具体的な活動があったと伺っております。その調査・研究活動の報告について委員の皆様にも共有していただく予定です。

議事として、市内小中学校や退職校長会などでも活用していただいております冊子の『図説 木更津のあゆみ』のWeb版の検討について提起させていただきます。

あわせて、新しい『木更津市史』の編集基本構想あるいは基本方針についてはかっけていただき、ご意見を賜りたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

事務局（高橋文化課長）

金子委員長より、ご挨拶をたまわりたいと存じます。

金子委員長 委員の皆様には、ご出席ありがとうございます。今、初谷教育長のお話にもありましたように、新しい『木更津市史』の編集基本構想、基本方針という大変重要な課題となっておりますのでよろしくお願いします。

事務局（高橋文化課長）

ありがとうございました。

最初に、資料の確認をお願いします。本日の編集委員会次第、出席者名簿、席次表、報告事項として1から7ページまで、議題として8から20ページまで、市史編集委員会日程を21・22ページに載せております。抜けているページは、ありませんでしょうか。

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を、金子委員長にお願いいたします。

金子委員長 これより議長を務めさせていただきます。

本日は、2つの報告事項と2つの協議事項について事務局から提出されております。

はじめに、報告事項について事務局より第1号、2号一括で説明願います。

事務局（高橋文化課長）

報告第1号といたしまして、今年度第2回木更津市史編集委員会議事内容について報告いたします。資料の1から4ページでございます。

第2回木更津市史編集委員会は、10月23日(水)午後2時00分から実施

いたしました。内容は、2つの報告と、2つの議題について協議しております。

委員の皆様から出された主な意見と、事務局からの後日回答分を含めた回答内容については、資料のとおりでございます。また、資料3・4ページには、前回の委員会の中で実形委員からご意見のありました旧高旧領取調帳をもとに、市内にあった66カ村の名前を列記したものです。今後の調査の参考となるように旧村名と字名、寺院、神社を対比しております。

なお、前回の編集委員会の詳細につきましては、会議録として市のホームページで公開しております。会議録のご希望があれば、委員会終了後に事務局までお申してください。

報告第2号についてでございますが、前回の編集委員会におきまして提案のありました資料調査に関する報告でございます。資料の5から7ページでございます。

調査は、自然部門といたしまして、成田副委員長からご推薦いただきました方々により実施しております。

また、図書館所蔵の「中郷文書」についてを三浦副委員長、郷土博物館金のすずで、昨年11月2日土曜日から12月26日木曜日の期間に開催いたしました企画展「幕末の木更津」で、借用中の請西藩関係資料の調査を実形委員を中心に行っております。

調査内容につきましては、途中経過といたしまして、自然部門の調査を成田副委員長、図書館の調査を三浦副委員長、郷土博物館金のすずの調査を実形委員それぞれから説明をお願いします。

金子委員長 それでは、事務局から要望がありましたので、はじめに成田副委員長、状況報告をお願いします。

成田副委員長 自然部門として、資料の5・6ページに掲載されているとおりです。調査担当は植物は2名、動物は2名、地学は1名で、11月から12月にかけて調査しております。調査結果等は、資料6頁のとおりです。

調査のねらいですが、植物は開発が進んでいる調査地を選定して行っております。調査した場所は、金田地区の防風のためのタブとかマテバシイの林を調査しております。

南のほうは、市の火葬場付近の雑木林、大変すばらしいのですが、この雑木林ですとか、神社の樹木を調査しております。

動物については、今後の調査地を選定する意味で、『図説 木更津のあゆみ』を執筆した時の場所を一通りまわって、今後の調査地になるかどうかを視察的

な意味で調査しております。その結果、6ページに書いてあるように矢那、草敷、田川、山本七曲などを調べ、今後の調査には支障はないということがわかりました。そして、大変気になっていたのですが、田川を2010年に調査したときには、マシジミがいたのですが、その時すでに100固体の中に5固体位タイワンシジミが混ざっておりましたが、今回、12月に調査した時は、全てタイワンシジミに置き換わっておりました。それは、木更津市に限ってではなく、千葉県全域的な傾向で、千葉県にはマシジミはいないかもしれないと専門家から聞いております。

地学は、笹子の露頭ですが、貝化石を大量に含む清川層を調査しました。非常に厚い層で、主な貝は、二枚貝ではバカガイ、巻貝ではこんな大きな(10～15cm程)アカニシの貝化石が出てきました。ここで、これまでデータや写真がありませんでしたが、それを記録してきました。

金子委員長 ありがとうございます。つづきまして、三浦副委員長お願いします。

三浦副委員長 資料7ページにある歴史部門に関して報告します。調査は、図書館と郷土博物館金のすずで行っており、図書館は私が、郷土博物館金のすずは実形委員が主に担当しております。

図書館の調査は、図書館で所蔵する旧中郷村の役場、公民館、地域から出てきた資料「旧中郷村役場文書」の目録作成です。

第一次には、資料目録を早急に作成するというで行っており、大体できております。更に第二次的に、綴りの中に閉じこまれていた多数の書状・ハガキ等、貴重な資料がありますので、そういったものに枝番を付けて、より詳しく目録化します。

資料は大正末から昭和初期位。ちょうど、満州事変が起きる直前位で、大正デモクラシーの流れがあって、千葉県では、千葉県青年処女という青年団連合会の機関誌を発行する中で、木更津出身の高橋正之(たかはしまさゆき)、あるいは世話役の梶四衛(かじしえい)、あるいは中川良助(なかがわりょうすけ)といった先生と連絡をとりながら地域で活動をした書簡があるので、それらの目録を作っております。

金子委員長 ありがとうございます。つづきまして、実形委員お願いします。

実形委員 企画展(郷土博物館金のすず)の関係で、東京にある林家(旧請西藩主)から資料を借りるということで、展示で借用した分と追加で2回、あわせて3回で全ての資料を博物館で借用したわけですが、これを来年度いっぱい資料目録と撮影を行うということで作業を進めております。

7ページにあるように12月22日からこの作業を始めました。現状記録と書いてあるように、まず保管状態をスケッチして取り上げて、秩序立てして、まとまっている状態を発掘調査のように一つ一つ封筒に入れながら手書きで記録をとるということをやっております。そして、封筒詰めが終わりましたら、手書きで仮目録を作るという作業に入っております。まだ借用してきた資料のほんの一部ですが、100点か200点位仮目録の段階に入っています。

取り上げながら分かってきたことですが、旗本の時代からの資料が残されています。林 忠久（ただひさ）という江戸時代後期の代で、それ以降、近代から昭和までの資料が残されております。

今回の目玉は、企画展で展示した大名になった時の林 忠英（ただふさ）の肖像画が出てきたこと。つまり、大名家の資料になるわけです。それ以外に旗本時代の資料と、最後の殿様の忠崇（ただたか）の一代前の忠交（ただかた）の代に伏見奉行（京都）を務めておりますので、その関係の資料が出てきております。あとは忠崇が色々と作成した資料がたくさん出てきております。

注目されるのは、明治以降、家格を再興させる運動をしておりますので、それ以降と男爵家以降の資料がまとまっておりますので、そういう資料を整理しております。

林家というと請西の林 勲さんが『林侯家関係資料集』をまとめておりますが、貴重な資料で、実際に実物はどうなっているのかを確認しながら作業を行っているところです。このあとは仮目録をデータ入力して、撮影できるものは全点撮影することになります。

金子委員長 ありがとうございます。ただいま、事務局から二つの報告と、3人の委員の方々から自然部門と歴史部門の調査状況について報告がございました。

質問・ご意見があればお願いします。

金子委員長 自然の状況を伺いましたが、大変、変化が早いですね。

成田副委員長 早いです。

金子委員長 今後の調査の参考となる報告ありがとうございました。それでは、本日の議題について事務局の説明をお願いします。

事務局（高橋文化課長）

議題第1号についてでございますが、『図説 木更津のあゆみ』の活用方法の一つとして、Web版の作成について提案させていただきます。

資料の8から10ページでございます。『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針についての、第3項目に編集の方針についての中で、写真や

図版を多く取り入れるほか、ニューメディアの活用も考慮して、市民が親しみやすい市史を編集するとされております。また、昨年の7月1日に開催いたしました第1回木更津市史編集委員会と、11月1日に開催いたしました第2回木更津市文化財保護審議会におきましても、Web版の作成に関する意見が出されましたので、今回提案させていただきます。

自治体史Web版の作成状況を 東京大学史料編纂所で調査しております。平成24年9月時点で自治体史をWeb上で公開する自治体は48団体確認されております。参考として兵庫県尼崎市の『図説尼崎の歴史』と、三重県亀山市の『亀山市史』について紹介いたします。詳細は、小高と寺原が説明いたします。委員の皆様には、これらの事例を踏まえ、資料9・10ページの内容についてご意見を申し上げます。

事務局（小高副主幹）

兵庫県尼崎市の『図説尼崎の歴史』と、三重県亀山市の『亀山市史』のWeb版について説明いたします。

まず、兵庫県尼崎市の『図説尼崎の歴史』Web版ですが、はじめに刊行物としての『図説尼崎の歴史』上下巻を平成19年度に刊行し、その後、尼崎市と園田学園女子大学短期大学部と共同して作成しております。

Web版の基本概念は、学ぶ市史から調べる市史としております。作成にあたっては、『図説尼崎の歴史』の内容をWebサイト用に編集し、構成しなおしております。またWeb版作成には、刊行物の内容に必要最小限の補正変更を加えているとのことです。

三重県亀山市の『亀山市史』Web版ですが、平成15年度から平成22年度まで実施しております。書籍としての刊行物は発刊せず、Web版のみ作成しております。インターネット上で、市の歴史に関する情報資源を利用できれば、市史編さん中に蓄積された膨大な史資料を利用でき、新たに追加更新もでき、最新の情報を利用できるようにしております。また書籍としての刊行物はないため、刊行物の保管場所が必要ではなく、書籍だと紙数制限から掲載する史資料を制限しなければなりません。書籍より情報量を多くすることができるとのことです。

作成にあたっては、外部委託せず、作業部会を設置し、職員と作業部会により作成しております。印刷は、著作権の問題もありますので一部可能にしていますが、完全に印刷できないようにすることは不可能なため、Web版の使用にあたっての制限や、リンクに関して発生した損害の対応について明記してい

ます。なお、公開の方法については、寺原より説明いたします。

事務局（寺原事務員）

『図説 木更津のあゆみ』をWeb上で公開する場合の公開方法についてご説明いたします。資料9ページの、「2. 公開方法について」及び資料の最後の2枚となっております「Web版参考資料」を御覧ください。

公開方法といたしましては、3つの方法があげられます。まず1つ目の方法として、HTML方式があります。画面イメージとしましては、資料の一番後ろに添付してあります、Web版参考資料の1・2ページになります。この方法は、『図説 木更津のあゆみ』専用のホームページを作成して公開する方法になります。尼崎市や亀山市の公開方法がこれにあたります。利用者はホームページを開いて閲覧することになります。まずWeb版参考資料1ページのような「はじめに」や「自然編」などのメニューが表示された画面を開き、メニューの中から、「自然編」を選択しますと、Web版参考資料2ページのような「自然編」の画面に切り替わります。

次に2つ目の方法として、PDF方式があります。画面イメージとしましては、Web版参考資料の3ページになります。この方法は、『図説 木更津のあゆみ』をPDFファイルにして、ホームページ上に添付して公開する方法になります。利用者はホームページを開き、そこに添付されているPDFファイルを開いて閲覧することになります。画面はPDFファイルが開いている状態になっており、『図説 木更津のあゆみ』の1ページがPDFファイルの1ページとして表示されます。画面を下に動かすことで次のページを見ることができます。

最後に3つ目の方法として、電子書籍方式があります。画面イメージとしましては、Web版参考資料の4ページになります。この方法は、『図説 木更津のあゆみ』を電子書籍として公開する方法になります。利用者はホームページを開き、そこから電子書籍ファイルを開いて閲覧することになります。画面上に冊子の状態で『図説 木更津のあゆみ』が開いて表示され、そのページをめくる操作をして閲覧していくため、紙の本を読んでいる感覚に近い状態となります。

以上が、公開方法の説明になります。なお、作成にかかる経費および日数につきましては、どのような機能を盛り込むのかなどにもよりますが、まず経費の面では、PDF方式が一番少なくなっており、電子書籍方式はPDF方式の少なくとも約4倍、HTML方式はPDF方式の少なくとも約11倍かかる概

算となっております。

次に日数の面でも、PDF方式が一番少なくなっており、電子書籍方式はPDF方式の少なくとも約2倍、HTML方式はPDF方式の約6倍かかる概算となっております。以上になります。

金子委員長 事務局より、議題第1号として『図説 木更津のあゆみ』の活用についての提案がありました。

『図説 木更津のあゆみ』の活用は、積極的に進めるべきものと思います。その方法の一つとして、Web版という方法があり、その事例と、種類について説明がありましたが、委員の皆さんには、このような活用の是非について意見ををお願いします。

あわせて、公開する場合の範囲と、その場合の問題点、公開後の取り扱いについてもご意見ををお願いします。

石井委員 2の公開方法の3方式について、具体的に『図説 木更津のあゆみ』の頁、図版等の重さで一番安いのはPDF方式だということですが、それぞれの方式ごとで、かかる金額と、Web上に公開するまでの期間について具体的に教えていただきたい点と、4の公開にあたっての問題点として著作権についてですが、それぞれ方式によって多少違うと思うのですが、その違いが分かれば教えていただきたい。

事務局（寺原事務員）

2の公開方法の具体的な金額と期間についてですが、まず金額の概算は、PDFの場合は最低で100万円はかかり、電子書籍の場合は少なくとも数百万円、HTML方式は1,000万円台はかかります。これは、どのような機能載せるのか、ページ数にもよりますので、最低限にかかる金額になります。また機能としてARという拡張現実機能というのがあり、使い方はスマートフォンなどの携帯端末機を本またはホームページにかざすと、動画や静止画、音声などが流れる機能になりますが、AR機能を取り付けると一つあたり30,000円ほどかかります。更に管理費として2週間単位で5,000円かかります。その他、もろもろの機能を付けるとオプションがかかります。期間は、PDFの場合は少なくとも1ヶ月、電子書籍の場合は2～3ヶ月、HTML方式は半年かかる概算となっております。

事務局（小高副主幹）

4の公開にあたっての問題点として著作権については、印刷制限をかけられれば資料の不正利用を防ぐことができますが、絶対に印刷（不正コピー含む）

できないということは不可能ですので、何らかの制限が必要になります。『図説 木更津のあゆみ』を刊行したときは著作権者に承諾を得ており、Web版を作成するときも再度著作権者に利用の承諾を得る必要があります。また、冊子では認められていても、Web上の公開は承諾を得られない場合も考えられますので、その都度確認しなければなりません。ただ、公開する図版等のデータの解像度を落とすことで、画面上では鮮明に見えても印刷すると図版等が小さく印刷されたり、印刷面の粒子を粗くするような処理を施すことはできます。更に公開にあたっては、利用の規定・免責事項を表示することで取り扱い方に注意を促すこととなります。

石井委員 今、伺った金額と期間については、直営の場合になりますか。

事務局（寺原事務員）

業者委託になります。作成にはITの専門知識が必要になります。

島立委員 市史等を1冊PDF版で出している自治体はありますか。『図説 木更津のあゆみ』を有料頒布しており、それをPDF版で無料頒布することになるのか、お聞かせください。

事務局（小高副主幹）

市史に関しては、東京大学資料編纂所の調査で24の自治体でPDF版を発行しております（委員会回答を訂正。この他、HTML方式は20自治体、電子書籍は2自治体、HTML方式と電子書籍両方は1自治体、専用端末を使用したアプリは1自治体）。また、参考として埋蔵文化財発掘調査報告書等をPDF版で公開する自治体もあります。

島立委員 利用する側からすれば、PDF版のほうが使いやすいし、値段（製作に要する）も安い。ただ、著作権の取りなおしの手間が大変かなと思います。今、千葉県立中央博物館で資料のPDF化をするので、大変なことになっておりまして、その作業量は並みじゃありません。業務委託する以外で、事務局側の仕事が増えると思います。

事務局（小高副主幹）

業務委託する場合、費用面と作業工程ではPDF版のほうが委託先への手間を省けます。ただ、『図説 木更津のあゆみ』を刊行した際、訂正箇所があり正誤表を作成しております。PDF版を作成するには、今のデータをそのまま使うことはできません。訂正箇所を修正するので事務局側の負担は増えます。委託先へデータを渡す期間として、修正にかかる時間と、著作権の取りなおしにかかる時間も相当要すると思われれます。冊子の『図説 木更津のあゆみ』の

刊行にあたり、著作権の承諾を得るには、概ね2年かかっております。Web上に公開するための著作権承諾も同様な時間がかかると思われます。

成田副委員長 4の公開にあたっての問題点ですが、『図説 木更津のあゆみ』に多くの写真を掲載しておりますが、『図説 木更津のあゆみ』をPDF方式で公開した場合、この写真だけをコピーして、個人的なサイトに貼り付けて使用され、それがどんどん広がって使用されてしまうことあるのでしょうか。

事務局（寺原事務員）

写真を公開すると、拡散にいたります。

成田副委員長 著作権者は、PDF方式で公開した場合、写真の拡散を承知していないといけないということですね。

事務局（寺原事務員）

はい。そうです。

成田副委員長 自分の撮影した写真が、とんでもないところで公開されているのを見つけたという話をよく聞いたことがあったので伺いました。

川戸委員 資料10ページの5の公開後の取り扱いとして、Web上で公開したあとの管理運営の費用ですが、3方式それぞれ製作にかかる費用と同じような比率なのでしょうか。

事務局（寺原事務員）

管理運営の費用に関しては、3方式のどの方式を採っても基本的に同じ金額になります。例えば、新規にサーバーを使った場合、レンタルだとレンタル料としてサーバー保守に年間5,000円、ドメインの獲得に年間1,800円が最低限かかります。

成田副委員長 動物の場合、貴重なワシとかワシタカの仲間ですと生息地がピンポイントでわからないように『図説 木更津のあゆみ』では気をつけたが、時代とともに貴重な度合いが年々変わってきています。県でもCランクであったものが、突如Aランクになってしまう（千葉県の保護上重要な野生動物分類群・カテゴリー別掲載種数による）。Web上で公開されると全国から人が集まってしまうこともありうる。冊子とWeb公開の反響は違うと思うので、慎重に扱ったほうがよろしいのではないかと思います。

事務局（小高副主幹）

市史を発行するという事は、市の魅力を市内外に伝えることが大前提であります。それが冊子であれ、Web版で変わりありません。従いまして、市史を見ていただく機会が増えるということはあるがありがたいことでもありますので、ぜ

ひ推進したいと考えます。

また、ご指摘のように、公開することで貴重な資料を守りつづける意識を育ませることができる一方で、失われてしまう危険性もはらんでおりますので、慎重に取り扱わなければならないということは承知しております。

『図説 木更津のあゆみ』の発行部数は限られておりますが、有償頒布は千冊近く頒布しておりますので、市民への周知は図られていると思いますし、更なる活用を期待しております。

今後は、成田副委員長からご指摘のあったWeb公開する上での問題点などを十分ご検討いただき、Web公開の是非についてご意見をいただきたいと存じます。事務局としても、委員の方々のご意見を踏まえながら事業を進めます。

石井委員 『亀山市史』の事例を報告されましたが、平成15年度から平成22年度にかけて公開したということですが、その後はどうなりましたか。

事務局（小高副主幹）

7年間かけて公開準備を進め、現在公開中です。

石井委員 『亀山市史』は電子書籍ですか。

事務局（小高副主幹）

『亀山市史』はHTML方式です。

石井委員 同じHTML方式でも、先ほどの『図説 木更津のあゆみ』の場合にかかる期間は半年で、『亀山市史』は7年と色々あるのですか。

事務局（小高副主幹）

『図説尼崎の歴史』は、公開するまでに3年費やしておりますが、その前に原稿執筆などに要する時間が別にあります。また、尼崎市は園田学園女子大学短期大学部と共同して作成しており、公開の様式を検討しながら作業を進めたとのことです。

『亀山市史』は、市史編さん委員会の中にデジタル作業部会を設置し、この部会で資料撮影と画像処理を行いながら公開の様式などを検討したため7年間を費やしたとのことです。

事務局（寺原事務員）

先ほど説明した費用と期間ですが、委託先へ手渡してからかかるものについてであり、それ以前の事務局側での作業期間及び費用については含まれておりません。

實形委員 外へ発信するにはこれ以上のものはないので、Web上に公開するということは概ねよいと思います。一方で、冊子のほうは完売間近なのかもしれませんが、完

売後に増刷されれば冊子も手に入る。Web版については、全部を公開すると、ダイジェスト版として出す方法が考えられます。冊子は良くまとまっておりますが、それでも300ページあるので結構厚い。内容を絞りこんでダイジェスト版としてまとめ、間違いなどもなおしながら見やすい形にするのが予算的にも現実的だと思います。また費用がかかるとは思いますが、Web版の写真をコピーすると、写真の中央に『図説 木更津のあゆみ』といった文字が表示されるような処理を施せばコピー制限もはかられます。そうしないと写真が拡散してしまいます。ですからダイジェストにしたうえで、画像データを使うときは制限をかけられるようにする。また、どのくらいの資料を載せるかによっても予算が変わってくると思いますので、構成を考えながら徐々に進めて行くということでしょう。

石井委員 これから本編の作成にかかるわけですが、Web版『図説 木更津のあゆみ』を作成するという事は、本編との二方向で進めていかなければなりません。Web版作成には、全ての資料を渡して半年（HTML方式）かかるということになれば、『亀山市史』のように事務局側の作業も含めて7年間にかかるかもしれない。数年だとしても本編のほうも時代（部会）によっては、資料目録等ができています。これから作るものについて、冊子とWeb上に公開することを含めて著作権者に承諾を得たほうがよいのではないのでしょうか。

成田副委員長 『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針についての中で、「新たな『木更津市史』刊行の気運を高めていく」とありましたので、更に市民が新しい『木更津市史』を作るという気運を高めるためにWeb版を作るということだと思います。

事務局（小高副主幹）

Web版の作成の提案理由には、『図説 木更津のあゆみ』の更なる活用を図るためということも一つあり、新しい『木更津市史』を作るという気運を高めるためということもあります。

成田副委員長 本編の編集と、Web版『図説 木更津のあゆみ』の作成を並行して行うということではよろしいのでしょうか。

島立委員 理想を言えば、HTML方式で公開し、冊子の『図説 木更津のあゆみ』は別に販売するというのがすっきりします。ただ、それは費用や時間等の負担がかかりますので現実的とは言えません。また、今の冊子を1冊PDF版として公開する場合も、事務局の担当者が1人で作業しても1年はかかると思いますし、予算措置も必要になってきます。Web公開も維持費がかかるのでしょうか。

ら成田副委員長の並行して行うということも現実的ではありません。本編を作りながら一部の頁をWeb上に公開するのがよいのではないのでしょうか。あるいは、例えば本編の古代編を刊行するときに、『図説 木更津のあゆみ』の古代編部分のみを公開することも一つの方法だと思いますし、著作権者の承諾も一緒に行えます。

事務局（小高副主幹）

本日、委員の方々のご意見を踏まえて、事務局として検討させていただきます。

金子委員長 事務局は、本日の意見を整理し、検討をお願いします。それでは、次の議題第2号について事務局の説明をお願いします。

事務局（高橋文化課長）

議題第2号についてでございますが、前回の市史編集委員会の議題として提案しました木更津市史編集基本構想及び基本方針の策定についてご検討いただきたいと存じます。なお、前回の日程の中で、今回の委員会は、新たな『木更津市史』編集基本構想及び基本方針の策定準備②と予定しておりましたが、ご検討いただく際には『図説 木更津のあゆみ』の再検証も兼ねまして、参考資料として用意しました『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針をもとに、資料11ページについてご意見を願いますとともに、成田副委員長から資料15ページにあります、自然編の基本構想を用意していただいておりますので、これらを踏まえて、新たな『木更津市史』編集基本構想及び基本方針の本題に入っていただきたいと存じます。

金子委員長 事務局より、議題第2号について説明がございました。『図説 木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針については、事前に送っていただいておりますので、まずは、『図説 木更津のあゆみ』の基本構想を項目順にみながら、新たな『木更津市史』の基本構想へも活用できるのかどうか、ご意見を願います。

委員の方々ご意見の前に、成田委員が作成した自然編の基本構想及び編集方針について、成田委員に説明を願います。

成田副委員長 新たな『木更津市史』自然編の基本構想及び編集方針についてですが、これは、『図説 木更津のあゆみ』の自然編を編集集中に前任の事務局担当者から依頼を受け、自然班で作成いたしました。編集方針及び組織については、資料14ページに書いてあるとおりです。基本事項は、将来に伝えていきたい、木更津の特徴ある自然の現在の状況を記録していこうということです。あとは、資

料15ページに書いてあるとおりで、民俗と重なる部分があったほうがよいのではないか。例えば、トウキョウサンショウウオですと、中尾では方言でヤマイモリと呼ぶと記載したほうが市民には親しみが持てて読んでくれるのではないかということです。また小学校高学年から中学生程度が理解できるような簡潔な文章で記載（『図説 木更津のあゆみ』は中学生程度）し、写真や図版を多用します。また、CDなどのデジタル化を積極的にはかります。各地で発行している自然編を参考にしておりますが、『鎌ヶ谷市史 自然編』は、紙ベースは小・中・高校生あたりが読めるような文章で書いてあり、専門的なものはCDに掲載しています。自然班としては、『鎌ヶ谷市史』のような体裁で出せばよろしいのではないかと考えております。

資料16ページ4の編集組織とありますが、調査研究・執筆員は11名で、『図説 木更津のあゆみ』では気候について記載しておりませんので、本編では気候を担当する方が必要になります。植物では海草関係、動物では海の動物とか魚類、甲殻類の担当が必要になると思います。その他、ボランティアなどの方が数名から10名位いないとデータの収集ができないと思います。

資料17ページは、本編の『木更津市の自然』の目次です。「はじめに」のあと、「Ⅰ. 木更津市の気候」「Ⅱ. 木更津市の大地」「Ⅲ. 植物」「Ⅳ. 動物」「Ⅴ. 人と人生」として農業と生産などについて掲載してはと考えておりますが、「Ⅴ. 人と人生」の執筆者がいるかどうかは検討を要すると思います。資料編としてCDを作成し、ここにデータを入れます。

金子委員長 ありがとうございます。成田副委員長から『木更津市の自然』ということで案を出していただきました。委員の方々からお聞きしたいことはありますか。

金子委員長 『図説 木更津のあゆみ』の基本構想と成田副委員長からの自然編の説明に対する意見はでませんので、資料11ページにあります新たな『木更津市史』編集基本構想及び基本方針(案)の策定について項目順に意見をお願いします。

事務局（小高副主幹）

『図説 木更津のあゆみ』の基本構想及び編集方針について、ご意見がありませんので、新たな『木更津市史』編集基本構想及び基本方針については、『図説 木更津のあゆみ』の基本構想等を土台に作るということによろしいでしょうか。

石井委員 事務局に確認します。資料21ページに平成25年度の木更津市史編集委員会日程が記載され、22ページに平成26年度の日程が記載されております。このうち、市史編集事業に係る指針(案)について、『木更津市史』基本構想

及び基本方針（案）の策定の中での位置づけについてお聞かせいただきたい。

事務局（小高副主幹）

平成26年度の市史編集委員会日程の協議内容については、訂正させていただきます。『木更津市史』基本構想及び基本方針の中に、市史編集業務に係る指針は含まれており、指針を作成してから『木更津市史』基本構想及び基本方針の策定に入ります。

初谷教育長 これから作る『木更津市史』の内容と文章表現は、『図説 木更津のあゆみ』より難しくなると思っておりましたが、その点について委員の方々のご意見をお聞かせください。

金子委員長 用語及び文章表現は、基本的に『図説 木更津のあゆみ』と同じように読みやすい内容になると思っております。今までに出版されたものはルビもないし、表現も難しいものが多い。

初谷教育長 『千葉県史』や以前の『木更津市史』の表記も非常に難しいものになっています。『図説 木更津のあゆみ』は、編集方針として子供たちにも読めるように文章表現を注意して作っていただきました。

金子委員長 文体は口語体で漢字は原則常用漢字にするといった『図説 木更津のあゆみ』の方針に則っていくようになります。

成田副委員長 文章表現は平易ですが、中身はより広範囲になって深くなるということになります。

初谷教育長 『図説 木更津のあゆみ』は、内容も格調的では素晴らしいものになっておりますが、『図説 木更津のあゆみ』の対象としている読者層と、新たに作る『木更津市史』の読者層とはイコールと考えていいのかお聞かせください。

實形委員 本格的な市史を作成することになれば、資料編を先に作るようになります。

初谷教育長 資料編が専門的なものになるということですね。

実形委員 最近の通史編はフルカラーで、写真を多用するものが多くなっていますので、新しい『木更津市史』も本当にわかりやすい通史編になると思います。また、通史編の基になる資料編の活字は専門性のあるものになり、一般読者よりは研究者向けになります。

金子委員長 ほかに、要望とかお気づきの点がありましたらお願いします。

事務局（能城部長）

『図説 木更津のあゆみ』に関しては、基本構想及び編集方針を1年間かけて掲げたものであります。その上で『図説 木更津のあゆみ』の位置づけを決めて、今度作成する新修『木更津市史』にどのようにつなげていくかの議論を

しています。『図説 木更津のあゆみ』は2,000冊（平成26年2月13日まで2,349冊）ほどはけていますが、これらがどのように活用され、市民の『木更津市史』刊行への気運の醸成がはかられているのか、『図説 木更津のあゆみ』の評価を出していただきたい。その上で、市民がどういう『木更津市史』を求めているのかを整理して、それに基づいて基本構想をどうするのかを検討していただきたいと思います。

新しい『木更津市史』は、単に専門家の集団で作るということではなく、市民一人一人が編集に参画できるようなものにしたいという思いがありますので、その点を踏まえて議論していただきたい。それと並行しながら資料の収集・調査活動を進めていきたいので、事務局と相談していただきながら取り組んでいただければと考えておりますのでよろしくお願いします。

成田副委員長 市史を編集する組織をどのようにするのか、調査をする方、まとめる方などといった組織を先に決めることをお願いしたい。

金子委員長 資料14ページに載っているような市史編集組織の各班の活動ということですね。

成田副委員長 14ページは『図説 木更津のあゆみ』の編集組織で、『木更津市史』本編の組織は別になりますので、ここところが重要と考えております。

金子委員長 事務局は、成田委員の意見についていかがですか。

事務局（小高副主幹）

『図説 木更津のあゆみ』では6つの班を作って調査・研究していただいております。前回（第2回）の木更津市史編集委員会の中で報告したとおり、これまで刊行した『木更津市史』『図説 木更津のあゆみ』の掲載した内容で、足りない部分も踏まえて編集組織を見なおしていただきたい。例えば寺社（所在地、祭神、ご本尊等の基礎資料のみ掲載）、建築、絵画等が抜けております。これまで実施していないものについての調査を踏まえて、組織作りをお願いするとともに、部会員の推薦をお願いしたい。

金子委員長 議題2について、いくつかご意見が出されました。特になければ、本日の会議は終了したいと思います。

事務局は、本日の意見を整理し、次回の市史編集委員会の議題内容の検討をお願いします。事務局からは何かございますか。

事務局（高橋文化課長）

本日のご意見を踏まえながら、次回の市史編集委員会にはかる議案を提出いたします。また執筆者、調査員、ボランティアは『図説 木更津のあゆみ』の

編集でもありましたので、その点も踏まえて皆様にはかります。

なお、郷土博物館金のすずにおきまして、企画展「春夏秋冬～館蔵浮世絵展～」を1月11日（土）から2月9日（日）まで開催しておりますので、ぜひご来館ください。あわせて2月7日（金）午後1時半から午後3時半まで、菱川師宣記念館学芸員である笹生博樹さんによる「房総と浮世絵－菱川師宣と歌川広重－」という題名で講演会を行います。席もごございますのでよろしくお願い致します。

金子委員長 次回の市史編集委員会の開催日について提案ですが、木更津市の市史編集委員会は、各年度、4回開催するとうかがっております。

今年度は、市史編集委員会委員の委嘱が今年度7月からですので、本日の委員会は第3回目となります。本日の委員会で討議された内容をみますと、新たな『木更津市史』の編集について、いよいよ本格的な活動に入ってきたという感じがございます。本日の委員会は3回目ですので、委員皆様のご都合もありませんが、3月までにもう一度委員会を開催してはと思います。いかがでしょうか。

事務局（高橋文化課長）

次回の市史編集委員会の開催については、委員の皆様のご意見を踏まえながら調整をはかりたいと存じます。また、開催日が決まり次第ご案内させていただきますのでよろしくお願い致します。

金子委員長 次回の市史編集委員会の開催については、事務局からの要望で開催するという事でよろしいでしょうか。

各委員 （了承）

金子委員長 それでは、よろしくお願い致します。委員の皆様方には、長時間にわたりご審議をいただき誠にありがとうございました。

事務局（高橋文化課長）

金子委員長ありがとうございました。以上を持ちまして、第3回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。次回の木更津市史編集委員会につきましては、3月中旬を予定しております。本日はありがとうございました。

平成26年 1月30日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子 馨